

大学生と小学生の協同による地域の魅力再発見事業 ～能登町立鵜川小学校 6 年生との地域の魅力再発見事業～

団体名●直江ゼミナール／代表者名●直江学美（人間科学部こども学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

直江ゼミは本年度、「大学生と能登の小学生と共同で、地域の魅力を再発見する事業」(主催：石川県農林水産部)に参画した。

本事業の背景は、次のとおりである(石川県農林水産部提案)。

- ・震災により多くの方が二次避難により地域外へ流出し、地域の過疎化が一層深刻に
- ・過疎化の進展に伴い、能登で受け継がれてきた様々な生業の継承が一層と危ぶまれる状態に

これらの背景を元に、①地域の生業を、地域内の小学生と地域外の大学生と一緒に学ぶことで、地域の魅力の再認識に繋げたい、②震災の被害を受けながらも復興に向けて取り組む担い手の取り組みを記録し、能登への応援を呼びかけるためのコンテンツとして県内外のイベント等の場で活用したいというものである。

直江ゼミでは、地域に学び地域に貢献する立場から参画を決めた。直江ゼミの連携先は、能登町立鵜川小学校の6年生(10名)で、石川県農林水産部、能登町立鵜川小学校、一般社団法人くくむ、金沢星稜大学直江ゼミとの協同事業となった。直江ゼミからは、3年生3名、4年生1名の合計4名の学生が参加した。

活動内容

本事業は3回の共同ワークを行うことが決められていた。

1回目：顔合わせとリサーチ

2回目：インタビュー

3回目：影絵ワーク

まずは、地域のことを知ること、およびテーマを決めるために、大学生側のみで事前調査を行った。事前調査は、8月18日能登町鵜川地区において、地域の区長および、地域の事に詳しい菅原神社の宮司に聞き取り調査を行い、その後、鵜川公民館および海瀬神社を訪問した。

鵜川地区における現地調査により、にわか祭りをテーマがテーマになりそうであると方向づけた。



(写真1) 祭りで使うにわかについて、絵師より話を聞く学生。

9月25日(水)【Zoom での顔合わせ】

活動場所：Zoom

メンバー：能登町鵜川小学校6年生(児童10名, 担任, 校長), 直江ゼミ(学生3名, 教員1名)
鵜川小学校と Zoom で顔合わせを行い、クイズなども準備し、事業に向けて交流を行った。

10月1日(火)【1回目(顔合わせとリサーチ)】

活動場所：能登町鵜川小学校

メンバー：能登町鵜川小学校6年生(児童10名, 担任, 校長), 直江ゼミ(学生3名, 教員1名)

活動内容：リサーチの共有, 取材先候補の決定, 取材に向けた準備(質問だしおよび役割分担)。

10月31日(木)【2回目(インタビュー)】

活動場所：鵜川公民館

メンバー：にわか祭り関係者3名, 能登町鵜川小学校6年生(児童10名, 担任), 直江ゼミ(学生3名, 教員1名)

活動内容：取材の実施

11月8日(金)【3回目(影絵ワーク)】

活動場所：能登町鵜川小学校

メンバー：能登町鵜川小学校6年生(児童10名, 担任), 直江ゼミ(学生3名, 教員1名)

活動内容：影絵体験, 影絵人形制作



(写真2) 2回目：絵師にインタビューしながらにわかについて学ぶ児童と学生。



(写真3) 3回目：影絵を作る児童。



(写真4) 3回目：影絵を投影させる児童と学生。

こども学科の学生ということもあり、児童とのコミュニケーションがうまくいっていた。連携先の児童とスムーズに関係を築き、児童と協力してプロジェクトが進んだ。影絵に関しては、ほぼ全員が初めてだったため、児童、学生問わず、興味深く作業を行っていた。

成果、結果の考察

本事業は、今年度が初めての開催であった。しかし、石川県農林水産部の職員の丁寧な調整により活動が非常にスムーズに進んだ。

ゼミ活動として、事前に能登町のことを座学で調査したり、能登町出身の学内の学生に話を聞いてまとめたり、事前の準備をしっかりとこなった。そのうえで、こども学科が得意とする、児童との人間関係をZoomで築いてから顔合わせをおこなったことは、事業全体に良い影響を及ぼしていたように思う。また、参加した学生は、当初は能登に詳しくはなかったが、活動を通して、能登町鶴川地区の事をより身近に感じることができていた。

よって、①地域の生業を、地域内の小学生と地域外の大学生が一緒に学ぶことで、地域の魅力の再認識に繋げたいという目的は達成されたと感じた。

②震災の被害を受けながらも復興に向けて取り組む担い手の取り組みを記録し、能登への応援を呼びかけるためのコンテンツづくりについては、地域の実情から、にわか祭りについての記録(影絵)となった。このように、臨機応変に地域の実情に合わせることも短期間のうちに負担なく事業を行うという上では必要であったと思う。

児童にとって身近なテーマであるにわか祭りを取り上げたこと、影絵を媒体として、自分たち(児童と学生)が調査した内容を、自分たちが制作したもので表現できたことも、児童・大学生双方にとって良い学びをもたらした。

今後の課題、展望

この活動を通して、本事業が小学生、大学生双方にとって良い結果をもたらしたことを実感した。

本ゼミナールでは、来年度以降も継続して本事業に関わる予定である。能登にある別の小学校との活動になると思うが、本年度の経験およびこども学科の強みである、こどもとの人間関係づくりを大事にして、地域に学び、地域に貢献することを模索したい。